

# World Watching 106

ワールド・ウォッチング



山田 孝嗣  
名古屋港管理組合  
専任副管理者



## 政治環境に 翻弄される キプロスの港



### はじめに

東地中海の真ん中に位置する、愛と美の女神アフロディーテ（ビーナス）誕生の伝説の島、キプロス島。中東で紛争が起きた際には、避難民の受け入れ先としてメディアに登場するが、わが国では馴染みが薄い。四国の半分位の面積1万km<sup>2</sup>の島だが、トルコ軍の侵攻により、北部のキプロス・トルコ共和国（トルコ系、国連未承認）と南部のキプロス共和国（ギリシャ系）の2つの国に分かれ、その国境線上にある首都ニコシアもグリーンラインと称する壁で二分されている。

平成20年度ポートセールスミッションで南部のキプロス共和国を訪問し、主要港を視察する機会があったので、その概要について紹介したい。



### キプロス港湾庁

1960年の英国からの独立後、キプロスの港湾は通信運輸省港湾局の管轄下にあったが、リマソール港およびラルナカ港建設に対する、世界銀行からの融資にあたっての勧告に基づき、1973年にキプロス港湾庁（Cyprus Ports Authority）が設立される。

同庁はキプロスにおける港湾施設の管理、建設、運営という公的な役割を担う一方、船内荷役を除く各種港湾サービスの提供も行っている。



山肌に描かれた北キプロス国旗

また、国際航路標識協会（IALA）に加盟する灯台管理者でもある。

1974年のトルコによるキプロス北部への侵攻により、それまで主要港として機能していたファマグスタ港等がトルコ占領下に置かれることとなり、現在は、キプロス南部（キプロス共和国）のリマソール港、ラルナカ港といった商港、バシリコ工業港や漁港等その他小規模港湾を管轄下においている。



### 主要港の概要

#### ●リマソール港

1974年に、それまで貨物の83%、旅客の約半分を扱っていたファマグスタ港がトルコの支配下に置かれた直後に供用を開始し、現在ではキプロス共和国への船舶の約8割が寄港し、貨物及び旅客の両方を扱う総合港湾である。2007年の



リマソール港港湾図

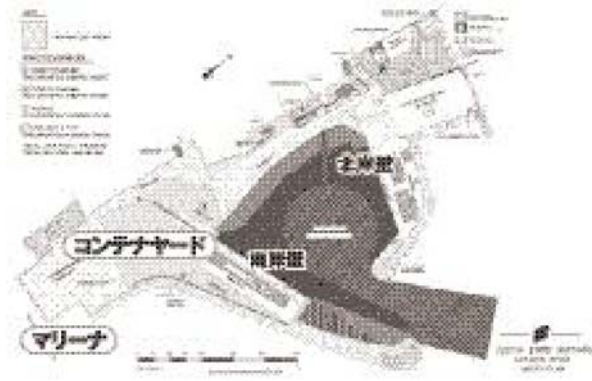
総取扱貨物量は約450万トン、この内コンテナ貨物については約38万TEUを扱っており、この5年間で48%の伸びを示している。また、同港は東地中海地域のクルーズハブとして機能しており、エジプト、イスラエル、レバノンといった近隣諸国への定期航路を持つ他、大型客船がエジプトやイスラエルから黒海、欧州へ向かう際の寄港地にもなっており、年間約40万人の乗降客数がある。

北東向きの港口を有する港湾として、1971年より建設が始まり、北岸壁、西岸壁、東岸壁、南岸壁と、欧州・黒海沿岸とアジアをつなぐ東地中海のトランシップハブ港としての港勢の拡大に併せ、施設整備が進められてきたが、1996年のトルコによる経済措置（キプロス籍船及びキプロス入港船舶のトルコ港湾への寄港禁止）によりトランシップ貨物比率が50%から5.2%に激減しているという。

現在は、トルコのEU加盟による経済措置の解除を睨んで、貨物取扱機能は順次西側にシフトし、東側には大規模なマリナーや旅客船機能や商業機能を導入するというコンセプトの下、浚渫（泊地水深、-16m・進入航路水深-17m）やコンテナターミナルの拡充・再編、旅客ターミナル新設等の計画が検討されている。

#### ●ラルナカ港

リマソール港の60km北東に位置するラルナカ港は係船可能な南北2つの防波堤により構成され、市街地から2kmと近く、直背には住宅地が迫る。北側には石油製品基地が立地し、南側はマリナーに隣接している。開港当時は石油製品の取扱いが中心であったが、トルコ侵攻以降ファマグスタ港の機能を補完する整備が進められ、現在では在来貨物、石油製品も含め、あらゆる貨物を取り扱っている。2007年の取扱貨物量は約90万トンであるが、コンテナ貨物については順次リマソール港へのシフトが進んでおり、2007年にはコンテナ貨物の取扱いは0となっている。これに伴い、設置されているガントリークレーン



ラルナカ港港湾図

もリマソール港に移転される予定である。

コンテナ機能のリマソール港への集約に伴い、ラルナカ港は背後地での生産・消費貨物の取扱い機能のみを残し、旅客機能を強化することが決定されており、隣接するマリナーをBOT方式で開発するプロジェクト（事業費10億ユーロ）が進行中である。現在3つのコンソーシアムが名乗りを挙げており、その1つがPSAとのことであった。



#### おわりに

トルコによる侵攻あるいは経済制裁により、トランシップ貨物の減少や便宜置籍船数の減少等の影響を受けているキプロスの港湾であるが、スエズ運河を経由した海上物流ルートへ近接するという地理的なメリットを有している。2004年にはEUに加盟し、また、海外企業に対する法人税がアイスランド、スイスと並んで低く（10%）、EUを始めとした各国の企業が代理店を置くケースも増えているようである。

更に、9000年に及ぶ長い歴史を誇り、歴史を物語る文化的建造物や数々の遺跡（世界遺産に登録された文化遺産は3つ）や青い海と白く輝く砂浜等、美しく保たれた自然景観等多くの観光資源に恵まれ、地中海クルーズの拠点としてのポテンシャルも大きい。

地中海港湾間の競争が激化する中、トルコのEU加盟を睨みつつ、トランシップ港としての復活を目指すとともに、クルーズ船受入れ機能の強化を図るため、貨物、旅客の両面から国内各港の機能分担や各港の再編に向けた取組みが進められている。また、懇談中に名古屋港との姉妹港提携の話題も出たが、複雑な政治環境の下で、島国としての生き残りを港にかけるしたたかさであろうか。

キプロス港湾庁所有のタグボートでリマソール港を海上から視察したが、海の色が綺麗な点と、ギリシャ軍や国連軍の艦船の係留が目につく点が印象的であった。